

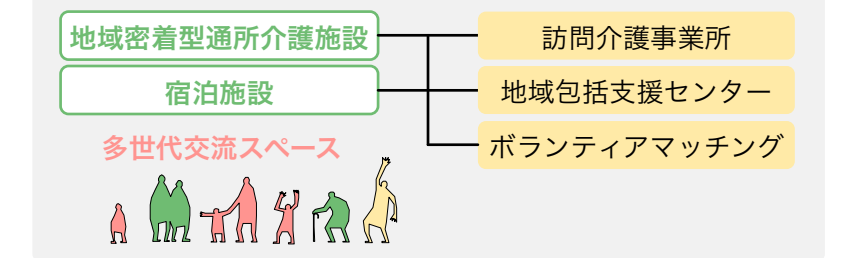
福祉を届ける

日本の高齢化は今も加速し続け、3人に1人が高齢者という時代はすぐそこまで来ています。高齢者を支えることも、高齢者とともに暮らすことも、もはや誰にとっても日常となるのです。そのような時代に私たちは、従来のような集約型の施設に利用者を集めるのではなく、むしろ私たちが地域に向き、そこで必要とされる多岐にわたる支援を行うサテライト型の福祉を開始します。誰もが育った地で、慣れ親しんだ土地で、気軽に支援を受けられる、そんな「届ける福祉」の場は、皆が自分の家の延長のように感じられる「みらいの家」なのです。



福祉のハブとなる「みらいの家」

高齢者の支援は、本来は制度の枠組みの中で規定されたサービスにとどまるものではありません。「生きること」には、多岐にわたる活動や多彩な人々との出会い、きめ細かなケアが不可欠です。そのため「みらいの家」では、日常生活に向けたリハビリを行う地域密着型通所介護施設^①の他、訪問介護事業所・地域包括支援センター・ボランティアマッチングセンター・宿泊施設を併設し、さらには地域で活動が続けるチロル堂(こどもたちの駄菓子屋)や一般社団法人トライアングル(障がい者の旅支援)とも連携しながら、多面的な支援を行う福祉のハブとして機能させます。地域の高齢者に寄り添う身近な支援に加え、住民やボランティア団体との橋渡しも行い、さらに多彩なイベント活動を通じ、地域との親密なつながりや交流を促進します。



まちのキオスクとみんなの畑

「みらいの家」の道路際には、まちのキオスクとしての売店を、緑地側にはみんなの畑を設けます。畑では、ここを訪れる高齢者が野菜を育てたり、花を育てたりします。日々生き物に触れることは、生きる活力につながるからです。また売店では、できた野菜を販売したり、チロル堂と連携した駄菓子や、被災した醤油屋、味噌屋の商品、高齢者に必要な日用品などを販売します。売店も畑も、高齢者の生活を支えるだけでなく、復興支援として利用者とまちの交流をより積極的に促していくための仕組みなのです。

こどもにとっての「みらいの家」

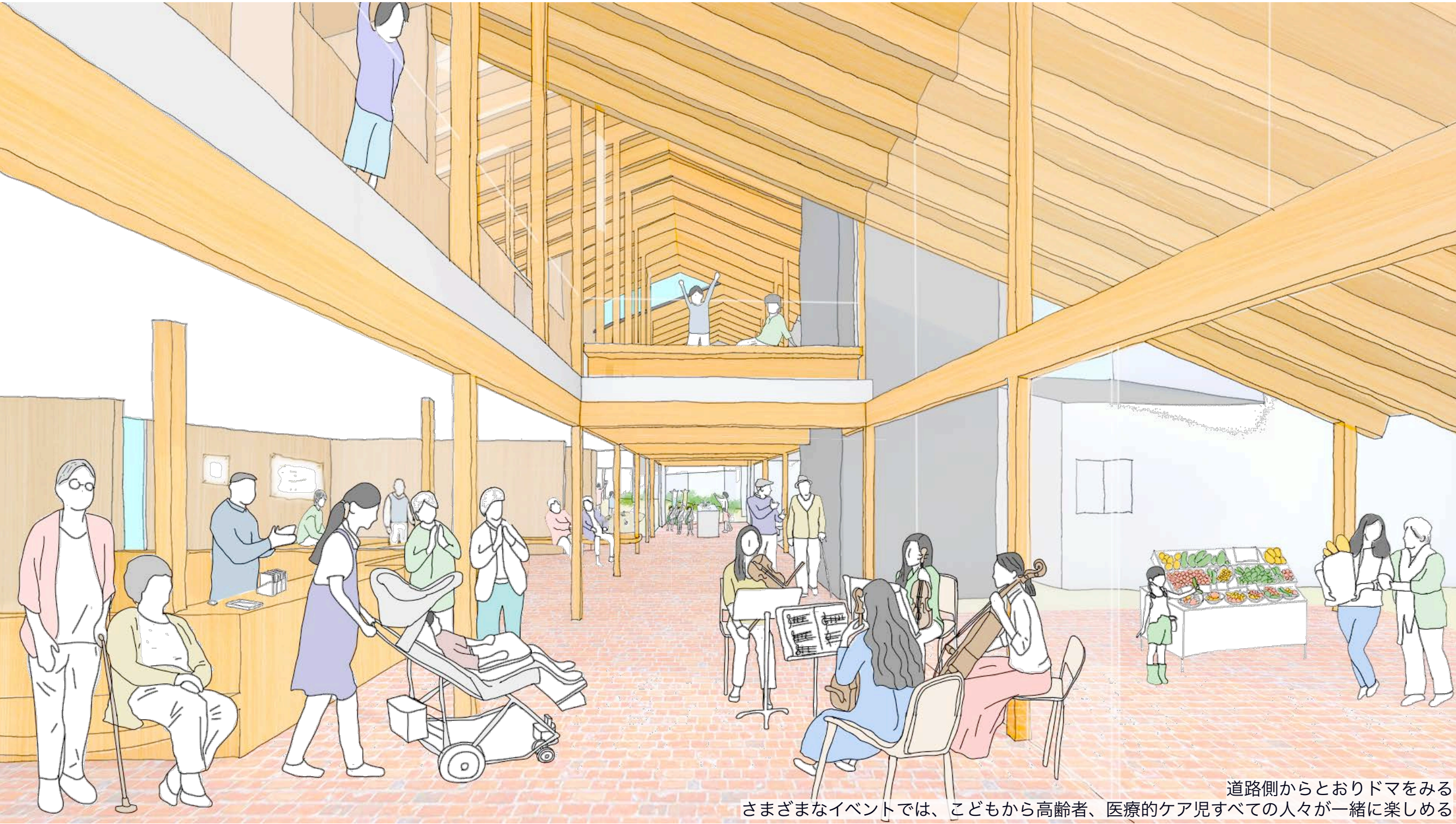
「みらいの家」は、地域のこどもも歓迎します。駄菓子を買いに来たついでにそのまま中に入って一休みしても良いし、奥の緑地まで通り抜けるのも自由です。高齢者にとって、こどもとの触れ合いは認知症予防にもつながり、またこどもたちにとっては親以外の大人たちから数多くの教えを得る貴重な機会です。こどもたちや高齢者が日常的に触れ合う機会は、高齢者の未来にとっても、またこどもたちの未来にとっても掛け替えない経験なのです。

能登の復興の下支え

「みらいの家」が建つ場所は、のと里山街道の起点であり、また能登へのバスのターミナルにも近接しています。高齢化がさらに進む能登半島での高齢者支援の道筋は、まだまだ先が見えない状況です。そこでこの「みらいの家」では、地の利を生かし、能登からの高齢者も積極的に受け入れ、必要に応じて鞍月の各種施設での支援にも結びつけ、能登の復興の下支えをしていきます。



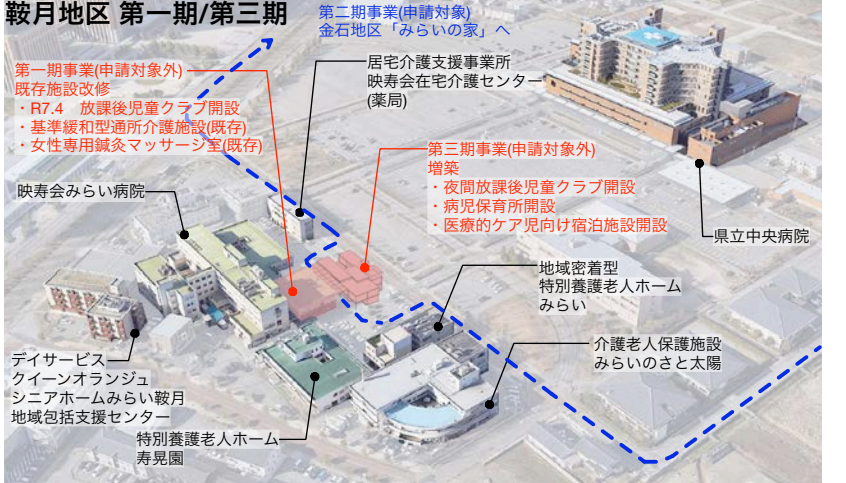
届ける福祉「みらいの家」



道路側からとおりドマをみる
さまざまなイベントでは、こどもから高齢者、医療的ケア児すべての人々が一緒に楽しめる

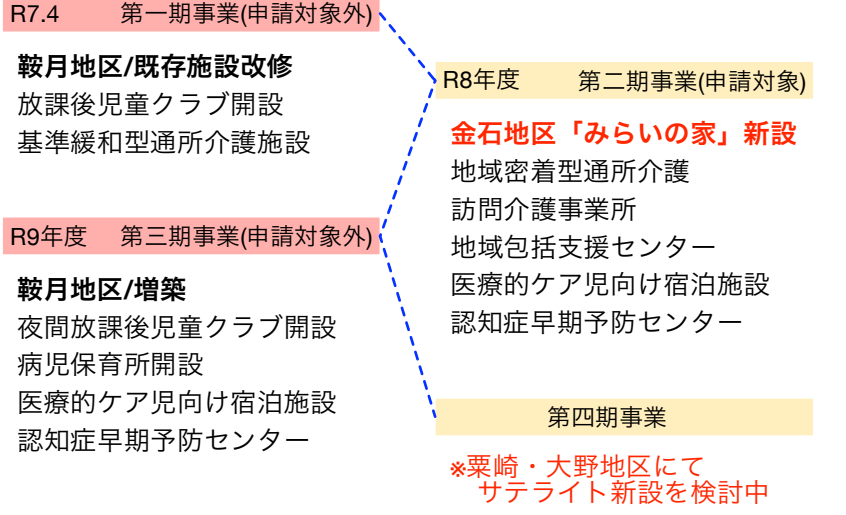
健康長寿を目指して

映寿会みらいグループ（中央福祉会）は、金沢市鞍月・太陽丘で医療施設の他、さまざまな介護施設やこども園、放課後児童クラブを運営し、県立中央病院と連携しながら長年地域医療・福祉に貢献してきました。同時に、東洋医学を通じて、人々の健康を支えてきた歴史を継承し、漢方外来や鍼灸院の運営、フィットネスの運営など、西洋医学だけに頼らない自然治癒力を高めるためのさまざまな活動を続けています。特に近年は、認知症予防や栄養学セミナーに力を入れており、健康長寿を目的に様々なイベントも行っています。



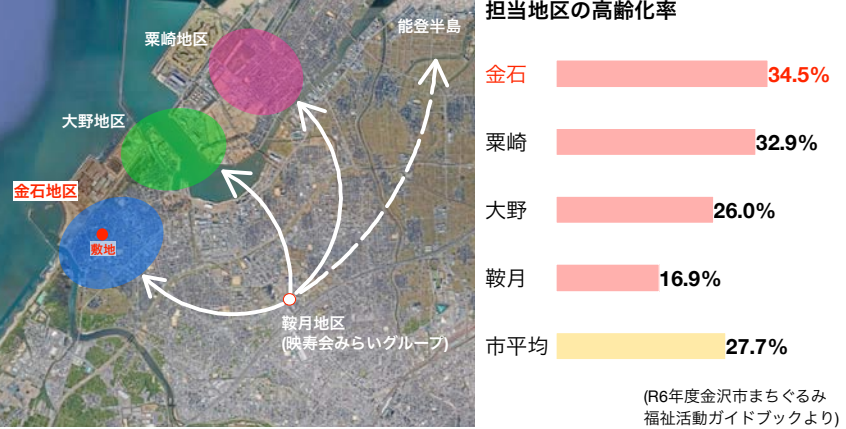
段階的計画

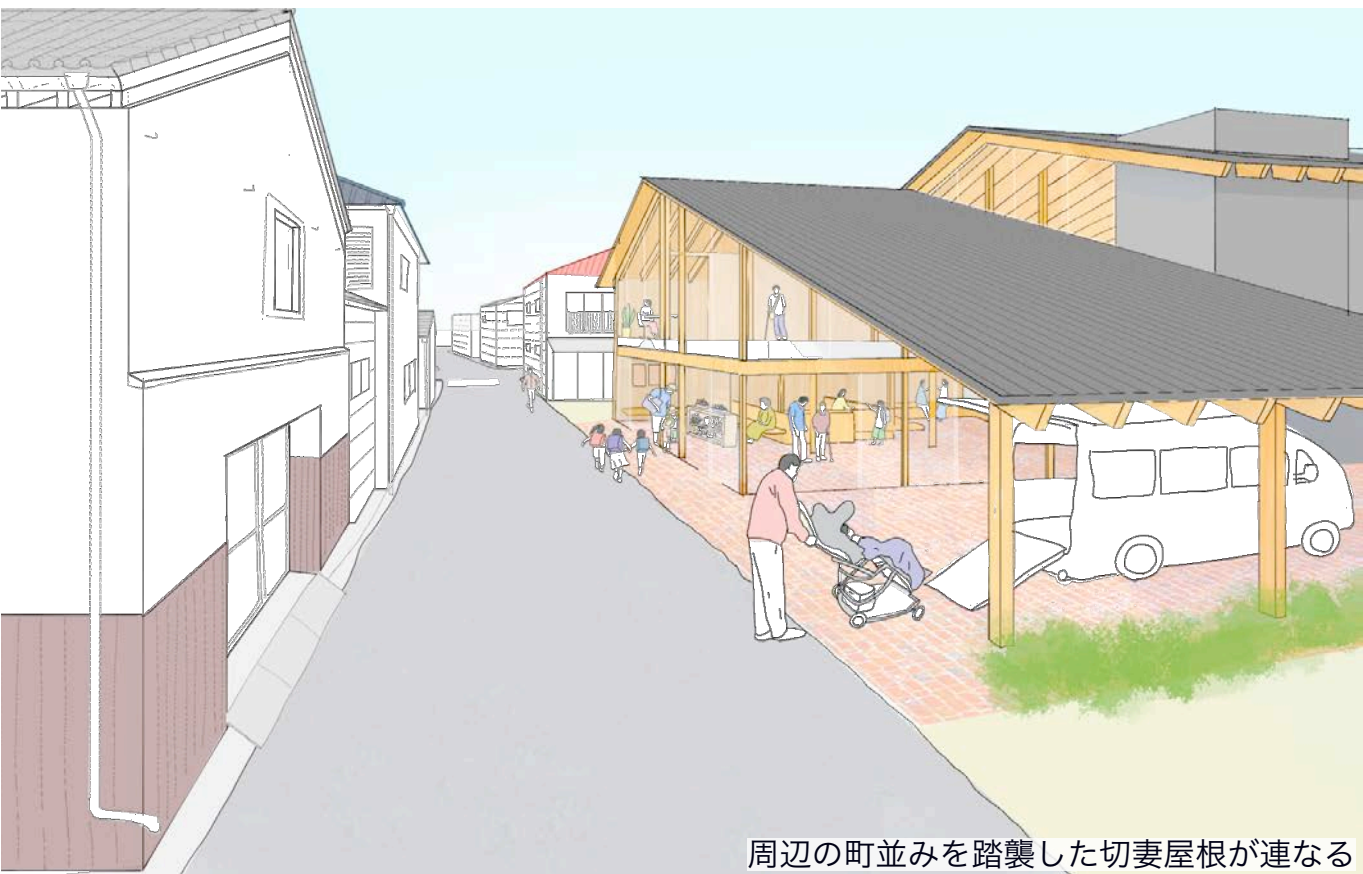
鞍月地区では、第一期事業にて不足している放課後児童クラブを、既存施設を改修して新設します。この地区は土地区画整理事業にて医療福祉ゾーンと位置付けられ、新たな居住人口が増加し年々児童数も増えています。医療従事者も多く、就労支援の一貫として、金沢市の要請を受けて令和7年4月に開設する運びとなりました。第三期事業では同敷地内へ夜間放課後児童クラブ・病児保育・多世代交流スペースを備えた施設を増築する計画です。



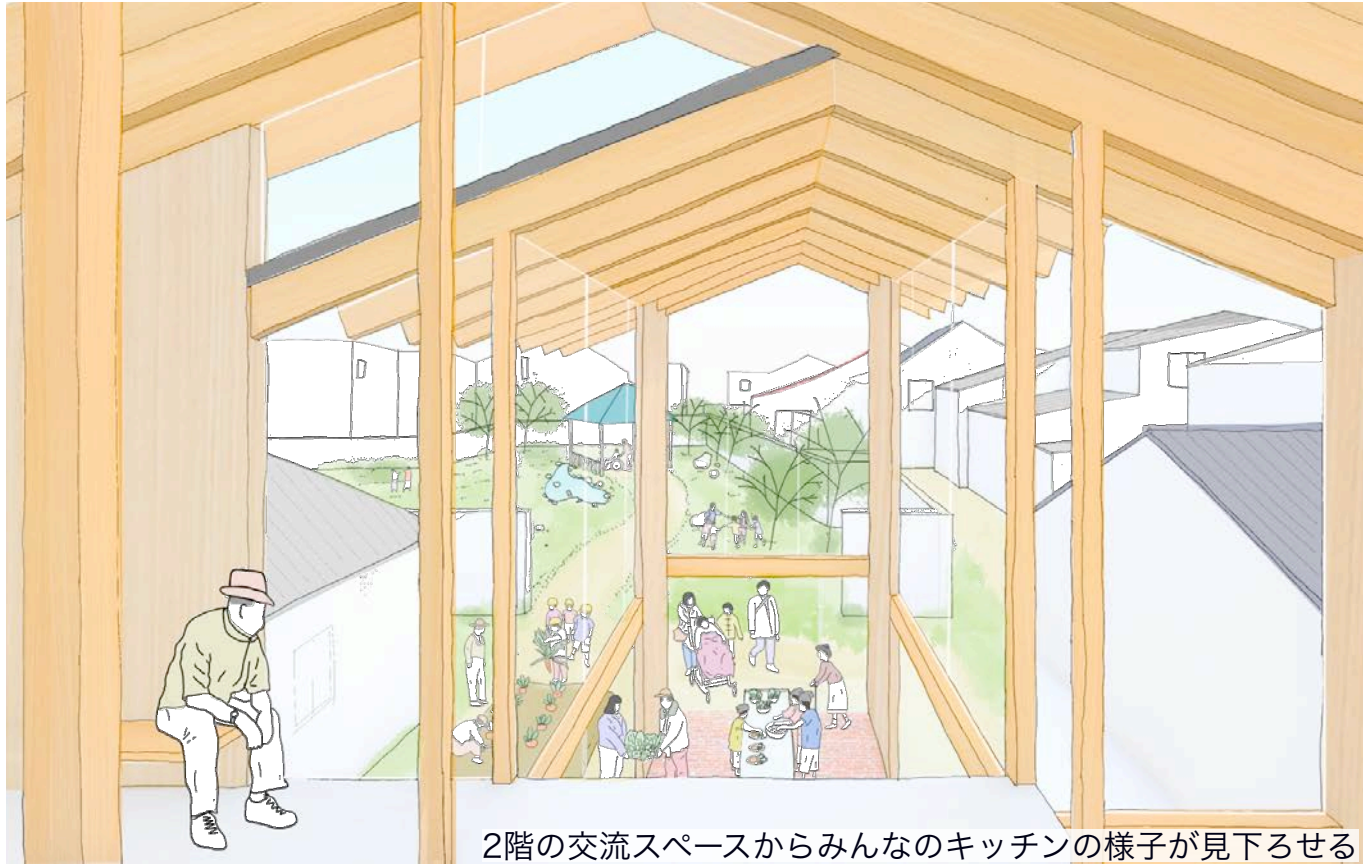
「みらいの家」を支える鞍月拠点

サテライト型の福祉施設「みらいの家」は今後粟崎・大野・金石地区へと展開しますが、中でも金石地区は、高齢化率が34.5%と4地区の中で最も高く、かつ独居の高齢者が多い地域のためサテライトの整備が急務です。一方鞍月地区の施設内には、市の委託を受けてすでに「金沢市地域包括支援センターくらつき」を設置しており、今後はこれらの「みらいの家」を統括する役割を担います。医療や介護のこれまでの知見や施設群を活かし、それぞれの地域で、その土地でしかできない支援をきめ細かく行なっていきます。





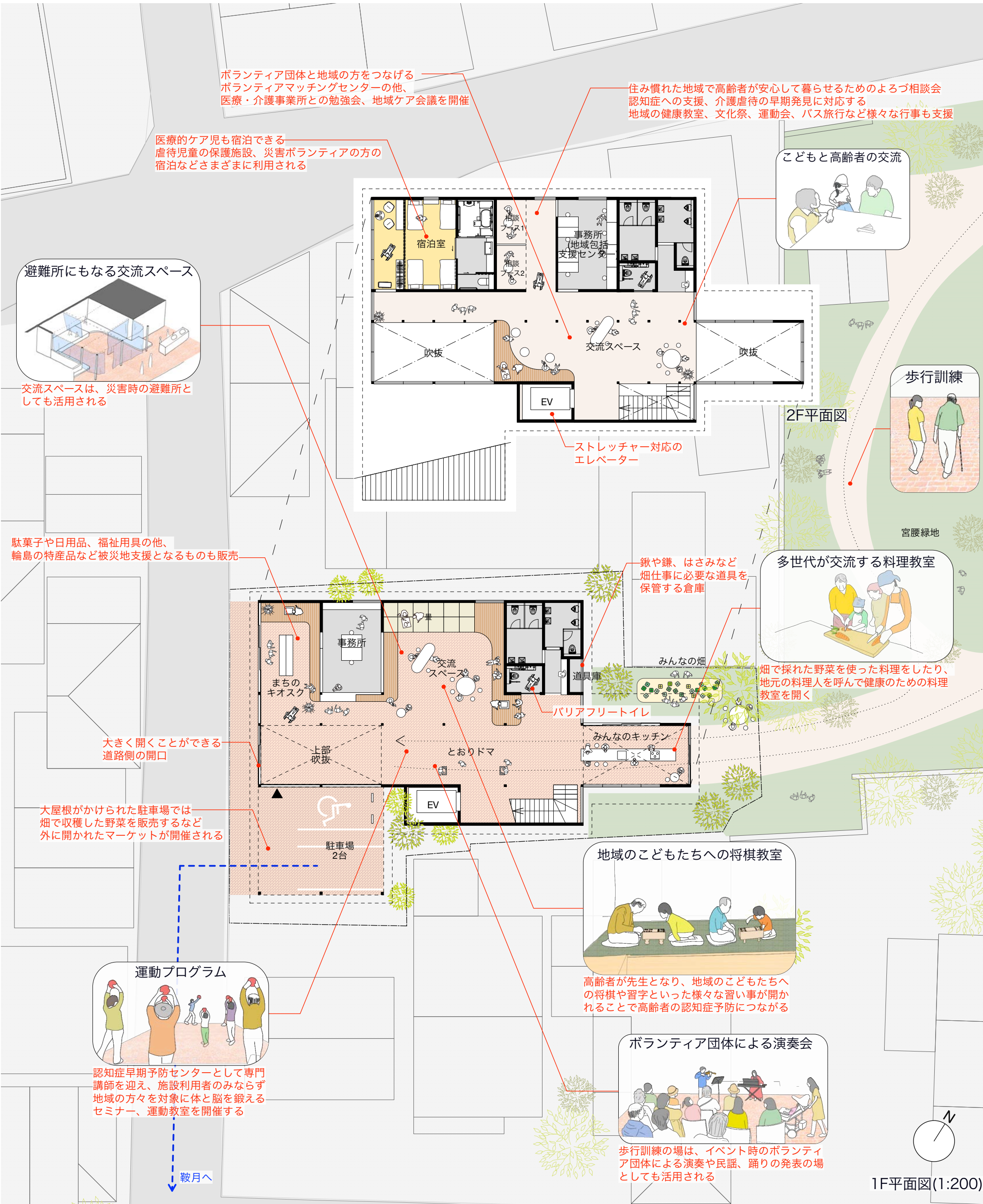
周辺の町並みを踏襲した切妻屋根が連なる



2階の交流スペースからみんなのキッチンの様子が見下ろせる

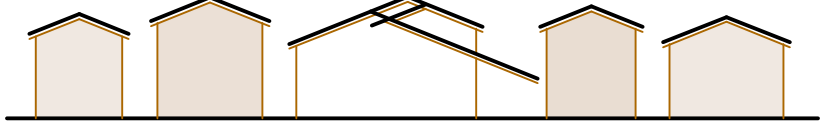


畑で収穫した作物を隣接するみんなのキッチンで調理する



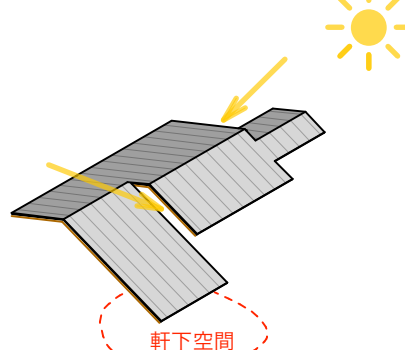
誰にも馴染みのある架構、誰も見たことのない架構

「みらいの家」は、一部集成材を使いますが、**地場の大工でも施工可能な在来木造**で計画します。誰にでも馴染みのある架構でありながら、誰もが見たこともないスケールの架構は、**地域の町並みと地続き**でありながら、**そこにしかない特別な場所**を生み出します。それは、誰もが訪れなくなる**地域の公共空間**にもなるのです。



連なる切妻屋根

切妻屋根がスレながら連なる屋根は、随所に**ハイサイド**が生まれます。1日を通じて**様々な方位から太陽光**が差し込み、吹き抜けを介して**1Fまで自然光**を届けます。1日の**時間の流れ、季節の移りい**を肌で感じられる空間は、ここで過ごす人々の生体リズムを活性化させ、生きる力を強く後押しします。また屋根は一部**大きな軒下空間**をつくり、雨天時でも安心して**送迎可能な駐車スペース**に、また町中のちょっとした**立ち寄り場所**や**イベントスペース**にもなります。

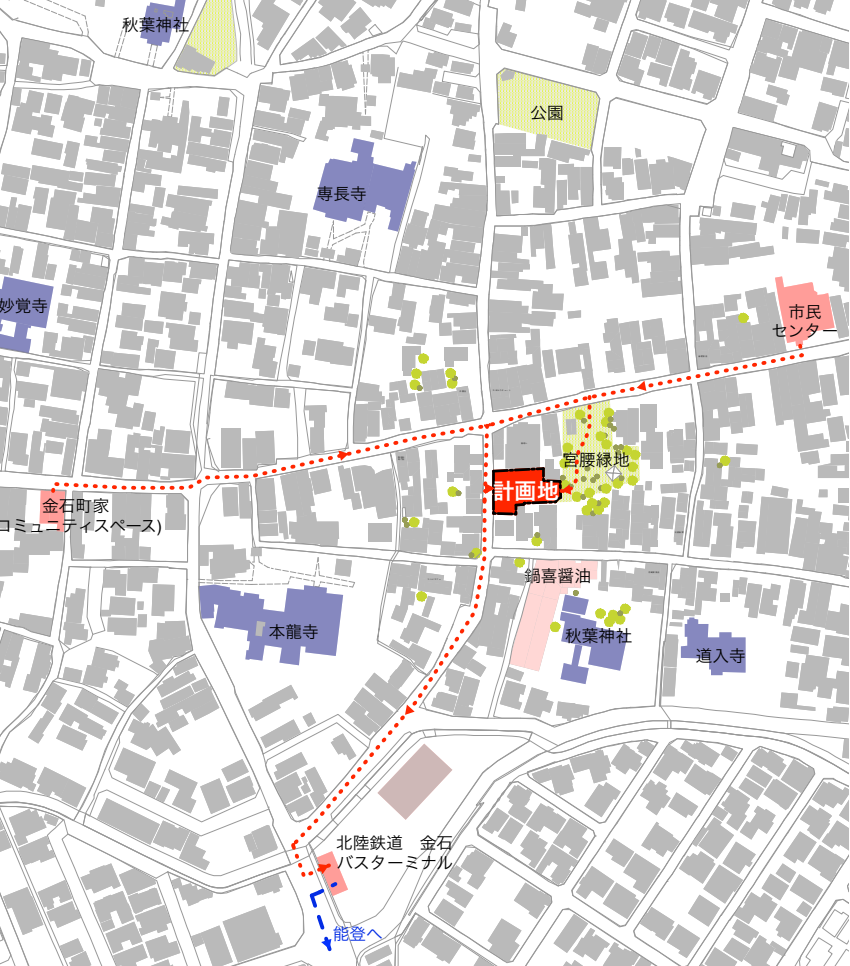


「みらいの家」の第一歩

サテライト型の福祉施設「**みらいの家**」の第一歩となる金石は、日本海に臨む**港町**で古くからの**町家が多く残り、潮の香りと歴史ある風情**が漂う地区です。また、輪島朝市へ**干物工場を提供し、出張輪島朝市**を開催するなど、自ら被災しながらも、**能登の復興へ向けた支援**も始めており、今後**観光客も増える**ことが想定されます。



計画地は、小さな商店や寺院が点在する**住宅地の一角**にあり、また、一般開放されている**宮腰緑地**にも**隣接**しています。この「みらいの家」は、この緑地と地続きでつながり、現時点では十分に活用されていない**緑地を活性化**させると同時に、周辺地域の**町並みを踏襲した切妻屋根の大きな家**のようにつくります。



支援の幅を広げる宿泊室

「みらいの家」の2階には、**柔軟に使える広めの宿泊室**を設けます。**医療的ケア児や障害者とその家族、家庭内で問題を抱えるこどもや認知症高齢者、あるいは介護スタッフや災害ボランティア**など、様々な状況に応じて宿泊者を受け入れ、**制度の枠を超えた様々な支援**を可能とします。

宿泊室の具体的な利用ケース

- ①医療的ケア児とその家族
一般社団法人TryAngleと協力して運用
(医療的ケア児の旅行等活動支援を行う団体)
- ②障害者・障害児とその家族
- ③家庭内で問題を抱えたこどもの一時預かり
虐待・貧困・ひきこもり等、地域民生児童委員と協力して支援
- ④認知症高齢者で緊急時に病院・施設へ入院・入所できない場合
- ⑤夜間対応型訪問看護・訪問介護スタッフ・災害ボランティア等の待機場所

地域を引き込むとおとりドマ

「とおとりドマ」はだれもが**自由に通り抜け**られる明るく開放的な**半屋外空間**です。歩行訓練をしたり、時に**コンサート**を開いたり、**様々な目的に供**することのできる空間です。通りからも緑地からも中の様子を伺うことができ、**地域と「みらいの家」をより近づけてくれる空間**です。入口付近の売店では、地域のこどもたちだけでなく、だれもが気軽に訪れることができ、金石地区の方が入手しにくい**輪島の特産品**も扱うなど、定期的に**被災地支援となるものの販売**もします。

